



## とうきょう すくわくプログラム

### 2025年度活動報告書

#### 世田谷喜多見雲母保育園



### テーマ【 自然 】

#### 設定した理由・背景

自園は世田谷区にあるが近くに野川があり自然豊かな環境にある。1年を通して自然と触れ合うことができ、四季折々の植物や虫、景色の変化などに子どもたちも興味を示している。自然散策をしている中で、「これは何という名前だろう」「この虫は何を食べるのかな」と言う声が上がリ、身近過ぎて詳しく知る事の無かったことへの興味関心が強まっているのを感じた。改めて園周辺の自然を見ることにより新たな発見や、自然物だけでなく自然を取り巻く環境にも目を向けていけると感じた為このテーマとした。

#### 用意した環境設定

- ・野川沿いやふれあい広場など普段の活動で行くことが出来る自然が豊かな場所での活動を増やした。また、年長児はアメリカキャンプ村でのお泊りに参加し、沢山の自然に触れた。
- ・購入品：顕微鏡、ルーペ、聴診器絵本、自然絵本、ルーペ、虫取り網、観察ボックス、昆虫ケース、クーピー、折り紙、画筆、カラーペン

### 活動のあゆみ

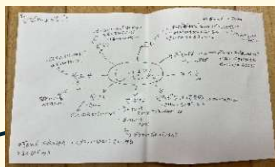
- ・4月 「自然」についてどんなものがあるか考えてみる
- ・7月～ 夏の虫の飼育、観察
- ・8/7.8 年長児 アメリカキャンプ村へ戶外学習
- ・10月～ 自然物を使っての製作  
バギーで少し遠い公園に行つての自然散策  
遠足で桜丘すみれ庭園に行つて自然散策
- ・1年を通して戶外活動でスコープや虫めがねを使っての観察。
- ・図鑑や資料を使って虫や植物の名前を知ったり、飼育方法を調べていく。

### ✿探究活動の実績✿

園周辺はとても自然が豊かで、戶外遊びをした際に四季折々の植物を集めたり虫探しや捕まえた虫の世話も楽しんでた。その中で「自然とは何だろう」と幼児クラスの子どもたちに問いかけると最初は言葉の意味を分かっていないようだったが、保育者と話を進めるうちに「花や草」「山」「動物」などの意見が出てきた。そこから「花にはどんな色があるのか」「虫を沢山捕まえてみたい」「虫を育ててみたい」と声が上がリ、普段の戶外遊びでもより興味を持って自然に触れ合っていく様子があった。戶外活動の際には虫眼鏡やスコープ、虫網、虫かご等のじっくり観察できるキットを持っていき、子どもたちが自分たちで観察したいものを見つけていけるようにしていった。また自然に関する図鑑をかなり読み込んで友達同士で情報を交換したり、園で虫の飼育をしている時に分からないことがあるとすぐに該当のページを開いて調べて意見を交わす姿が見られた。

年長児は泊まりで散策を行い、普段とは違った自然に触れることができた。参加する前から川遊びを楽しみにしており、山の水の冷たさに驚いたり水の中に苔なども見つけ、あまり見たことのない植物に園に戻って図鑑を見ると話しをしていた。またカニを捕まえることができると姉妹園の子に積極的に話しかけて教えにいき、交流を深めることができた。自然物を通して初めての友だちにも声をかけることができ良い経験となった。

幼児クラスがスコープや虫眼鏡を使って自然物を観察している様子を見て2歳児クラスの子たちも興味を持ち、一緒に戶外へ出掛けた時に虫眼鏡を覗いて見たリスコープに映し出されたものを見て目を丸くする様子があった。そこで製作でトイレットペーパー芯を使って双眼鏡を作り、外の景色を見て楽しんだ。年上の子たちの様子を見て身近な自然にさらに興味を持ち、ただ集めたり見たりするという行動から、詳しく知ったり観察したいという気持ちが芽生えているように感じた。自然物を使った製作や絵の具やクレヨンで絵を描いて自然を表現し、見たものや体験したことをより鮮明に形に残すことができた。「自然」と一言で言っても様々な面から考えたり、触れ合っけて楽しんだり、調べたことでさらに疑問が生まれたり1年を通して深く考えるきっかけとなった。自然豊かな環境を活かして今後も自然と密に関わっていきたい。



「自然」とは何だろうと保育者と考え、子どもたちなりの考えと、やってみたことや疑問が浮かんできた。



年長児のお泊り保育。自然物を通して他の園の子とも交流を楽しみ事ができた。



2歳児クラスでは自然物を使った製作を行ったり、自分たちの製作物を使っての自然散策を楽しんだ。より深く自然と触れ合うことができた。



自分たちで見つけたものをスコープで拡大して見て、興味の幅を広げていった。

### まとめ

園の周りに溢れている「自然」に改めて目を向けたことで今まで気に留めていなかったことに気づいたり、知りたいことや疑問を持って自然と触れ合うことができたと感じる。今まで見ていたものを拡大して見たりじっくり観察することで子どもたちもさらに戶外での活動を楽しみにし、子どもたち同士で会話するきっかけにもなった。保育者も一つの自然物や環境にとらわれずに柔軟に物事を見ることを心がけ、子どもたちと一緒に観察したり子どもたちから出た疑問を解決するために図鑑や資料を準備したり一緒に調べたりと活動していった。子どもたちがどんな事に興味を示しているのか、子どもたち目線の疑問点を知るきっかけにもなり、子どもたちの様子をよりじっくり見ることに繋がっていった。また、幼児クラスの子たちの様子が年下の子たちにも魅力的に写り、一緒に観察したり自分たちで製作したものを使って活動をすることができた。異年齢での活動に目を向けるきっかけとなったり、活動の幅も広がったように感じる。今後も子どもたちの発見や疑問を受け止めて「知りたい」「やってみよう」という気持ちを育てていきたい。



## とうきょう すくわくプログラム

### 2025年度活動報告書

#### 世田谷喜多見雲母保育園



### テーマ【 世界 】

#### 設定した理由・背景

・世界地図や日本地図が保育室に貼っており、日常的に目にする環境にあったが、それが何を意味するのかは分かっていない様子だった。保護者の知り合いに外国の方がいて、その国は地図で見るとどこにあるのかを知ったことで日本以外の国への興味が強まってきた。また、昨年のすくわくプログラムで世界や英語に触れることにより、日本語以外の言葉や、日本以外の国を知って興味を持つ子どもたちの様子があった。国によって言葉や文化が違うことを理解することで子どもたちの視野が広がり、様々な目線で物事を考察していけるのではないかと感じたため。

#### 用意した環境設定

- ・保育室に世界地図や国旗絵本を置き、子どもたちからの関心を引き出したり、地球儀をiPadで読み取り世界を覗いた。また、昨年度に引き続きオンライン英語レッスンをし、講師とのやりとりの中で世界を知り興味を深められるようにした。
- ・購入物品：地球儀、世界地図、絵本、図鑑、カルタ

### 活動のあゆみ

- ・保育室にある世界地図で日本以外の国がある事に興味を持ち、自分の好きな国旗を見つけていく。
- ・4/1～オンライン英会話開始  
※毎日9:30～ 15分のレッスンをを行う。
- ・毎日のレッスンの中で子どもたちからの質問を行う。
- ・教材を用いて毎日の遊びの中で国旗や言語を知っていく。
- ・7月～園で飼育しているカブトムシは他の国にもいるのか興味を持ち、図鑑で世界の虫について調べる。
- ・7/7.8、10/20、1/19異文化探求プログラム  
(世界の祭り、世界の乗り物、世界の動物)

### ✿探究活動の実績✿

園で飼育しているカブトムシの世話をしている時に、「外国にもっと大きいカブトムシがいるんだよ」と話す様子があった。また園児の保護者の知り合いに外国の方や、海外に住んでいる方がいるとの話があり、保育者の「外国はどんなところだろう」という問いに興味を示す様子も見られた。保育室に世界地図が貼ってあるのでその地図を見ながら「世界には日本以外の国がある」という気付きに繋がっていった。

夏には図鑑で外国種のカブトムシの事を調べ、その国と日本の違いを比較し、国の気候や自然環境、名前が英語表記なことで英語にも興味を持ち読めるようになりたいと話す様子があった。また地球儀やカルタなどの教材を使って遊びの中でも世界を知っていった。保育者が「外国はこんなふうにあるんだよ」と地球儀を出すと詳しく見てみたいと声がたくさんあがっていた。その地球儀にタブレットをかざすとその国の特徴や動物などが映し出され、立体的に見ることで子どもたちもより身近に感じることでできかなり積極的に見て楽しんでいった。地球儀やカルタなどのカードは日本語と英語で表記されていることが多く、英語で書かれている内容を「これなんて書いてるの」と保育者に尋ね、「英語と日本語って全然違うね」と改めて気付いていた。

昨年から引き続き行っている英会話レッスンでも講師の先生から手紙をもらったことで「返事を書きたい」と子どもたちから話があり、子どもたちが今まで習ってきた内容を思い出しながら保育者と一緒に返事を書いていった。講師の先生に喜んでもらえて子どもたちも達成感を味わい、外国の方に言葉が通じたことを嬉しく思っていた。講師の先生が変わることもあったので今後も英会話レッスンを通して壁を作らずに様々な方とコミュニケーションを取ることを楽しんでいければと思う。



異文化探求プログラムで日本にはいない動物を見て興味を示したり、講師の先生に手紙を書いて内容が伝わった嬉しさを感じていた。



国旗の絵本を見ながらお気に入りのデザインのものを選び、その国がどこにあるのか地図を見て探す様子があった。



地球儀やカードを用いて遊びの中でも英語に触れていった。楽しみながら英語に触れることで違う言語がより身近になった様子だった。



### まとめ

「世界」という大きなテーマのもと活動を行うことに難しさを感じることもあったが、保護者の知り合いに外国の方がいたり、遊びの中から好きな国旗を選んだことで子どもたちも少し身近に世界を感じていたように感じる。また、保育者が外国の虫や遊びについて紹介したり、給食では世界の温かい料理がテーマの献立を提供することで、日本との違いや自分との違いを子どもたちは柔軟に受け入れていて、「違い」を面白いもの、楽しいものと捉えていることに気づいた。その子どもたちの柔軟な様子に子どもたちが成長して様々な人と関わった時に壁を作ることなく接していけるのではないかと感じた。今後も楽しみながら、日本から遠い他の国のことを身近に感じられる活動を行っていきたい。



# とうきょう すくわくプログラム

## 2025年度活動報告書

世田谷喜多見雲母保育園



こどもの「すくすく×わくわく」をおうえん

### テーマ【音】

#### 設定した理由・背景

・自園は小田急線の線路の横に位置するので戸外へ出ると子どもたちは電車の音を聞き「でんしゃだ」「ロマンスカーだ」と嬉しそうに教えてくれたり、乗り物や乗り物の音に興味がある子が多くいた。また、朝や帰りの歌を園にあるピアノの音色に合わせて歌ったり季節の歌を歌ったり、いろいろな体操をする中で音楽に合わせて体を動かして様々な音に触れる姿が多く見られていた。音をテーマにすることで今まで以上に音楽に深く関わり、新たに自分で奏でる楽しさや広場のような広い場所でのびのび踊る楽しさを味わってほしいという思いからテーマを設定をした。

#### 用意した環境設定

・戸外、室内で思い切り体を動かせるようにアンプを用意し、運動会へ向けて、活動でも本番と同じ環境で行える環境を用意した。  
また、沢山の楽器に触れその中で気に入った楽器を使って合奏を行い練習の成果をクリスマス発表会で保護者に披露した。  
・購入物品：アンプ、運動会CD、メガホン、音の鳴る玩具・絵本聴診器、ドレミパイプ、タンバリン

### 活動のあゆみ

- ・5月9日～ 室内で体操やピアノのリズムに合わせてリトミックを行った。
- ・6月～ 戸外活動で音響設備を使いながら体操を行った。
- ・9月4日 幼児クラスはサークルタイムで運動会でどんな体操をやりたいか話し合った。
- ・10月20日～ 園にある楽器と新しく購入した楽器を知り順番に触れてみる。
- ・11月11日～ 合奏する曲を決めてピアノに合わせてそれぞれの楽器で音を奏でてみる。
- ・12月13日 クリスマス発表会で今まで練習した楽器を使い合奏を発表。
- ・2月2日～ 聴診器を使いいろいろな音に興味を持ち聞いてみた。

### 探究活動の実績

保育者が「保育園にある楽器って何があるか知ってる？」と子どもたちに問いかけると「ピアノ、鈴、カスタネット」などと教えてくれる姿が見られた。「今言ってくれた楽器の他に鉄琴やタンバリンやハンドベルはどんな音がするかな？」と聞いてみると、「きんきん?」「ポンポン?」などそれぞれが思う音を言い、実際にやってみると音を聞いて「きれい」「楽しい」など興味を持つ姿が見られた。その後、保育室内にそれぞれの楽器コーナーを作り子どもたちがじっくり触って奏でる時間を設けた。年中児、年長児は去年ハンドベルや鈴を使って合奏をしたが年少児や2歳児は初めて触れる楽器が多くあり、恐る恐る触り音が鳴ると笑顔を見せて鳴らし続ける姿が見られた。その中で「もっと優しく使おうね」や「こうやってやると音が鳴るよ」などの言葉かけを行いながら楽器の使い方を伝えていった。そこから曲を決め2歳クラスと幼児クラスで練習をし、クリスマス発表会で「てをたたきましょ」の曲を保護者の前で披露することが出来た。

また、幼児クラスは昨年行った音の活動からの延長で「いろいろな音を聞いてみたい」と言うことがあったので聴診器を使って普段は聞けない音を聞いてみる活動も行った。まずは「どこから聞いている」と聞く、「体の音」と言っていたのでお互いの体の音や自分の体の音を聞いてみた。そこから「違う音も探したい」と言うことで床や窓に当ててみたり、戸外では木や自然物に当ててみたり、広場の地面に当てて耳を澄まし興味を広げることが出来ていた。次年度はより自然であふれている野川沿いなどでも行っていきたい。

戸外活動ではふれあい広場で活動をする際に体操をして体を動かしてから活動を行っていたが、室内用の音源だと音が聞こえにくく何となく体を動かす姿が多く見られた。室内戸外兼用のアンプに替えると歌を口ずさみ楽しんで体を動かせるようになった。そこから運動会の練習が各クラス始まり体操や競技を行う中、晴れた日は音楽に合わせて体を一生懸命動かし、特に幼児クラスは体操を動画で撮影し、みんなでそろって出来るようになると「できた」と達成感を味わうことが出来ていた。日々練習をしてきた音に合わせた動きを保護者の前で披露出来、一人一人が自信をつけてひと回り成長した姿が見られた。



ドレミパイプのどこから音が出るか触ってみている。



楽器に触れて音を出す楽しさを味わう。



クリスマス発表会に向けてリズムに合わせて楽器を奏でる練習をする。



日々、音楽や音に合わせて体を動かす習慣が身に付いていた。



音楽に合わせて体操を練習して保護者に披露した。



お互いの体の音に耳を澄ませ、小さな音が聞こえることに気づく。

### まとめ

今まで自園にあった楽器以外の楽器を沢山知り、触れ、奏でることでより音楽に興味関心を持つことが出来た。その興味から幼児は自分の好きな楽器を選び使い方を練習し、2歳児、幼児でそれぞれの音が重なり一つの曲を作り上げることが出来た。クリスマス発表会の練習ではどうやったらきれいに聞こえるかを練習後にサークルタイムを行い自分たちの姿を思い出すとともに、それぞれが自由に奏ですぎると曲にならない難しさを知り、タイミングでアイコンタクトを取りなど耳を澄ませてみんなで音を合わせることできれいな曲になることを知ることが出来た。保育者が発表会で子どもたちが曲を保護者の前で披露する場を設けると、子どもたちもより達成感を味わうことが出来、子どもたちの自信につながりさらに楽器に対する興味が広がった。その後は子どもたちから「がっきやりたい」と言う声が増えるようになった。リトミックでは保育者がピアノで奏でるリズムに合わせて体を動かし保育者も一緒に行うことで連帯感も生まれ、普段は使わない体の動きも習得することが出来た。また、幼児クラスは昨年の音探しから継続して音への興味から違う音を探してみたいという探求心が育まれ、聴診器を使って普段はなかなか聞けない音を聞いてみることに興味を持ち継続して探すことを楽しむことが出来ているため、今後も活動を続けていきたい。